

CSR経営

日立は、経営戦略とCSRを融合し、ステークホルダーと価値観を共有することにより、持続的な成長を伴う真のグローバル企業をめざしています。「日立グループ・ビジョン」を実現するために「中期経営計画」とCSR活動を連携させながら、社会的価値と経済的価値の両立を図っています。

日立の経営戦略とCSR

日立グループ・ビジョン

「日立グループ・ビジョン」は、2013年5月に公表した「2015中期経営計画」のスタートに合わせ、次なる成長に向けた日立のあるべき姿として策定したものです。策定の背景には、社会が直面するさまざまな課題を解決し、持続可能な社会を実現したいという強い思いがあります。

日立は、社会が直面する課題にイノベーションで応えます。優れたチームワークとグローバル市場での豊富な経験によって、活気あふれる世界をめざします。

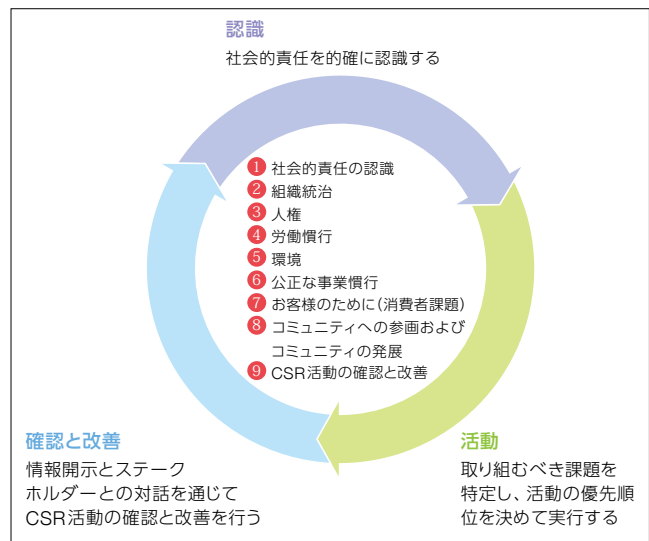
日立の考えるCSRは、この「日立グループ・ビジョン」を実現することにあります。

日立のCSR活動

日立は、CSRの原点である企業理念と日立創業の精神を踏まえて策定した「日立グループ・ビジョン」を実現するため、2005年度に定めた「日立グループCSR活動取り組み方針」を活動の基本として日立グループ全体で共有してきました。2013年度には、2016年度からの次期中期経営計画策定を見据えて経営とCSRの融合をより一層進めることを目的に、企業の社会的責任のグローバルスタンダードであるISO26000をベースとしたフレームワークに改定しました。2014年度からは、変化する社会

の期待を的確に認識しその責任を十分に果たすため、これまで以上にステークホルダーとのコミュニケーションを促進しています。また、CSR活動を着実に実行し経営品質を継続的に向上していくため、PDCAによる活動をさらに強化していきます。

CSRマネジメントのフレームワーク



2015中期経営計画と非財務パフォーマンス

中期経営計画の目標を達成するためには、財務活動のみならず、非財務パフォーマンスの向上も重要な役割を担っています。中期経営計画の各経営施策に関連する目標を定め、2013年度より活動しています。

2015中期経営計画のフォーカス	日立の重要課題	
	2015年度までの目標	2014年度実績
イノベーション： サービス事業を強化し、 イノベーションを実現	サステナブルビジネス	
	研究開発拠点の拡充 研究開発人員 500人 オープンイノベーションの拡大	世界7地域で研究開発を推進(2015年6月現在) 国内：約200人 海外：約300人 国内：246件 海外：85件
	環境適合製品売上高比率：90%	地球環境への配慮 93%
	ダイバーシティマネジメント	
グローバル： 社会イノベーション事業を グローバルに提供し、成長	取締役のダイバーシティ 社内女性役員の登用 女性管理職(日立製作所) 1,000人(2020年度目標)	(2015年6月：取締役12人中) 社外取締役8人、外国人4人(うち女性2人) 2015年4月1日付でCSR・環境戦略本部長を役員級の理事に登用 434人
	「ビジネスと人権」における人権デュー・ディリジェンスの実施	人権デュー・ディリジェンス 実施ガイダンスを作成、グループ内に共有
	政府関係者との対話 ステークホルダーダイアログの開催	公共政策とのかわり 政策審議会への参加 欧州、豪州で2件実施
	ダイバーシティマネジメント	
トランスフォーメーション： 業務のグローバル標準化 と変化に迅速に対応する 経営基盤の確立	グローバル人財マネジメント戦略の推進	「日立グローバル・グレード」を導入し、日本国内外のグループ会社の課長相当職以上の全職務の価値を統一基準で評価、グループ共通の格付けを実施
	Hitachi Smart Transformation Projectの推進： 2011～2015年度の累計効果目標 4,000億円	サステナブルビジネス 2014年度までの累計実績 3,200億円

環境活動

世界の経済・社会活動の発展に伴って、気候変動、資源の枯渇、生態系の破壊など、さまざまな環境問題が深刻化しています。日立は、こうした課題を解決し、地球上で人類が豊かに生活し続けていける社会を実現していくためには、環境への負荷をできる限り低減すべきだと考え、「持続可能な社会」を環境経営のめざすべき将来像とする環境ビジョンを掲げています。日立は、「地球温暖化の防止」「資源の循環的な利用」「生態系の保全」を重要な三つの柱として、製品の全ライフサイクルにおける環境負荷低減をめざしたグローバルなモノづくりを推進し、持続可能な社会の実現をめざします。

日立の環境ビジョン



環境に配慮した製品・サービス

日立は、製品・サービスによる環境への負荷を低減するために、環境に配慮した「環境適合製品」の開発に取り組んでいます。「環境適合製品」とは、開発・設計時に環境面への配慮を評価し、基準を満たした製品のことで、環境適合製品の開発を推進するために、売上高に占める環境適合製品の比率である「環境適合製品売上高比率」を高めることを目的に掲げています。また、環境適合製品の中で、特に高いレベルの基準を満たした製品を「環境適合製品セレクト」と認定し、その拡大を図っています。

2014年度の環境適合製品売上高比率は93%に達し、環境適合製品セレクト機種数は前年度より133機種増え累計343機種になりました。

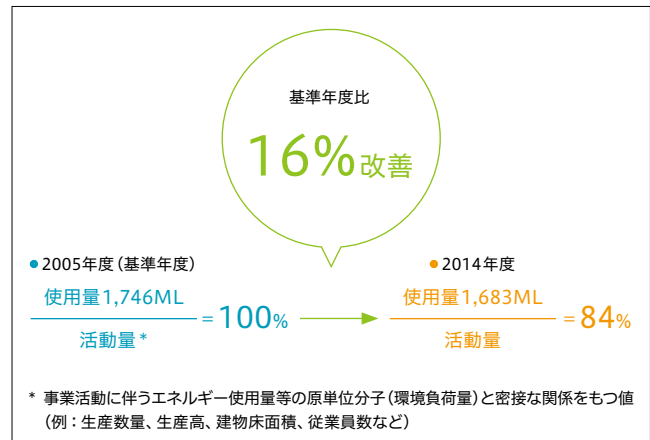
環境に配慮したモノづくり

日立は、事業活動による環境負荷を低減するため、エネルギーの効率的な利用のほか、廃棄物、化学物質の排出量削減、水資源の有効利用などに目標を定めて取り組んでいます。

地球温暖化対策の推進

工場やオフィスにおけるエネルギーの効率的な利用の指標として、エネルギー使用量原単位の改善に取り組んでいます。改善活動としてLED照明やインバータ、空調などの高効率機器の導入や、製品工程の改善によるエネルギー使用の効率化に継続的に取り組んでいます。

エネルギー使用量原単位



廃棄物削減の取り組み

工場やオフィスなどの事業所で発生する廃棄物を削減するための目標を定め、グローバルな活動を推進しています。

廃棄物有価物発生量原単位

